

尾張名所図会

広小路朝日神明宮

名古屋市中区錦三丁目

まちの賑わいと移り変わりをともにした社

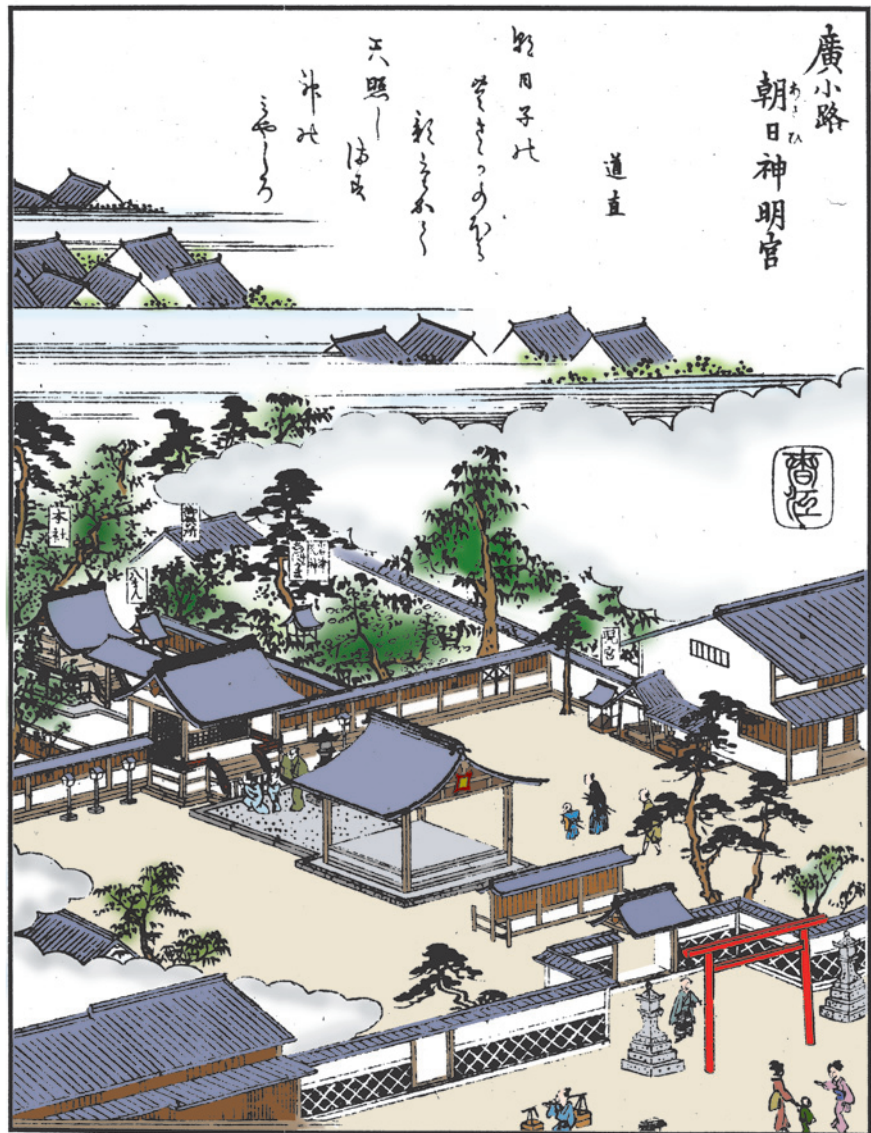
この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の朝日神明宮（現在は朝日神社）の様子です。朝日神明宮は、1611年（慶長16年）御遷府の後、春日井郡朝日村（現在清須市朝日）から現在の地へ移されました。祭神は、天照大神、天児屋根命あまてらすおみかみ あめのこやねのみことの2神が祀られています。祭礼は、9月15日に神楽、16日に湯立てが行なわれ、氏子の献灯の衣裳や門外の笠鉾は華美をつくしており参詣の人に、賞賛されていました。

朝日神明宮の門前の道路は、1660年（万治3年）の大火の後、城下の防火対策として、3間から15間の道路に拡張され広小路通と言われるようになりました。

その後、広がった道路では境内で行われていた見世物、芝居小屋の興行や屋台が奨励されたため多くの人で賑わい、一大繁華街となり神社にも多くの参拝者が訪れていたようです。

また、本殿のほか主要な建築物は、戦災により焼失しましたが、ご神体、一部の宝物は、安泰で、昭和28年に再建されています。

現在、神社周辺は、ビルが林立し、多くの人が行き交う名古屋有数の繁華街となっていますが、いったん境内に足を踏み入ると鬱蒼とした樹木に覆われ町の中心にいることも忘れ、ゆとりのある時間が過ごすことができます。



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。



朝日神社



朝日神社前の広小路通

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
「尾張名所図会前編」岡田啓 / 著 愛知県郷土誌刊行会 (Sc- ア)
「名古屋市中区史 区政 80 周年記念」中区八十周年記念事業実行委員会
「広小路物語」大野栄一 / 著 (Se- オ)
「名古屋の史跡と文化財」名古屋市教育委員会編 (Sc- オ)